鶴岡市議会議員〔無会派・産業建設常任委員会〕

田中ひろし 市政報告

2014 OCT.

＜連絡先＞　事務所　〒997-0036 山形県鶴岡市家中新町 13-35 メール：officefon@gmail.com
TEL 0235-22-0068　FAX 0235-22-0098
議会事務局　〒997-8601 山形県鶴岡市馬場町 9-25 鶴岡市役所２階
TEL 0235-25-2111　FAX 0235-24-9071

８月臨時会報告

19億9千万の増額に反対・・・賛成23で可決

８月２２日、１９億９０００万円の新文化会館の建設費増額を審議する鶴岡市議会臨時会が開かれ、賛成多数で可決。私を含めて１３名の議員から質問が出ました。いつもは閑古鳥の啼く傍聴席も約 30 名の市民やマスコミで埋まっており、関心の高さを物語ります。以下、私の**質問と当局答弁**、私の**反対討論**の内容を紹介します。４回目の入札結果が注目されます。

賛　　成：新政クラブ 18、政友公明クラブ 3、市民クラブ 1
反　　対：市民クラブ 5、共産党 4、田中宏 1
賛成討論：本間新兵衛、秋葉雄
反対討論：加賀山茂、関徹、田中宏

質　疑　応　答

■田中議員　なぜ今回の困難な工事の１回目の入札を地元業者に限ったのか。

■総務部長　基本設計・実施設計の段階で、地元業者が対応できる内容で設計するよう設計者に求めてきた。入札の際、名乗りをあげた地元業者もあったが、価格面などで入札に至らなかったのではないか。

■田中議員　なぜ建設工事が決まる前に取り壊したのか。現在の危機の最大の要因は、旧文化会館が建っていた場所への改築を選択したことである。2011 年 6 月の第一回整備検討委員会では、ある委員から「建設場所を先に決定して進むやり方に疑問を感じる」との意見が出たが、教育長は「場所は市で決めると説明し、理解を得ている」と発言し、更に委員長から「市議会でも承認されていることなので、土地の問題は動かない」とダメ押し。市当局内部だけで決定したやり方には、2011 年 6 月定例会で他の議員からも批判の声があった。

■教育部長　建設場所については、本市の総合計画やまちづくりの目標により、都市機能の集積という側面から中心市街地に立地すべき施設であって、また芸術・文化団体からも中心市街地への建設が要望されていたため現在地での建て替えを決定した。解体に合併特例債を充当できるのも大きな理由だった。

■田中議員　当初から 2 年半もの休館が見込まれていたが、どれほどの解体費用が合併特例債に組み込めたのか。そのメリットと、想定を遥かに超える休館期間が必要になった現状をどう判断するかが重要である。

■教育部長　解体工事に約 2 億円かかったので、1 億 2 千～ 3 千万円が交付税措置される。

■田中議員　2011 年、設計や管理運営の前提となるコンセプトを定める「整備基本計画」の策定支援業務をコンサルタントに依頼した際、落札業者以外の 5 者平均は 550 万円だったのに、その 10 分の 1 以下の 30 万円で落札されたことに問題はなかったか。最終的に完成した整備基本計画はわずか二十数ページで、確定せずに先送りしている内容が多いため、市民間の対立を生む一因となったと考える。

■教育部長　落札金額が幾らであろうと、こちらの要求する仕様どおりになっていれば問題ない。

■田中議員　2013 年 9 月、実施設計は大詰めの段階で、地元の建設業界と設計者を交えて研究会も行われたという。この時期、県内の公共工事でも入札不調が多発し始めていたため、9 月定例会の一般質問で建設スケジュールと予算について確認した。その際の答弁は「整備基本計画どおり年度内に解体工事に着手し、来年度から建設工事に入る。実勢価格を十分調査し、資材や人件費の高騰にも対応した価格を算出したい」というもの。見通しが甘かったのではないか。

■建設部長　当時、見通しが甘かった。（了）

（※ 次頁には反対討論を掲載します）

反　対　討　論　（全文掲載）

■田中議員　ただいま上程されております**19億9,000万円**の増額により、建設費用を**78億9,000万円**へ増額する議案に対して、反対の立場で討論いたします。

私が市議会議員を務めるようになって5年になります。5年前、新文化会館という構想は少なくとも表沙汰にはなっておらず、私が市議会議員になって間もなく浮上してまいりました。私は一音楽人として、これはすごくいいタイミングに出くわしたものだと思い、大きな関心を寄せ、18回ある一般質問のうち13回において新文化会館の問題を取り上げてまいりました。

一貫して、市民との対話、そして積極的な情報共有を求めてきたつもりでありますけれども、残念ながら市民の関心はそれほど高まりませんでした。しかしながら、3回の入札不調を経まして、かつてないほど市民の関心が高まったことについては、実に皮肉なことだと思っております。

そして、市民への説明不足といいましょうか、いかに情報が伝わっていないかということを昨今痛切に感じております。この**市民への説明不足のままで大幅増額することには、断固反対する立場**から、以下、これまでの経緯を踏まえながら反対理由を述べていきたいと思います。

2010年9月に、新文化会館の構想、コンセプトの段階から、幅広い分野、幅広い世代の市民と連携・協働していくべきだというふうに御指摘申し上げました。

そして、その2カ月後、長野県の佐久市で起こった総合文化会館建設の是非を問う住民投票によって、反対多数で建設が中止されたという事件がありました。

そこで、**2010年の12月**の定例会では、その長野県佐久市での住民投票による建設中止という事態を招いたのは、住民と行政の対話不足であるというふうに例に引きながら、その当時、**一部改修か、それとも全面改築か**というふうに市役所内部で話し合われているということになっておりましたけれども、**市民との対話をその段階から経て決定されるべきである**というふうに主張しまして、特に高校生とのワークショップを行って、その20年後、30年後に鶴岡市を担っていく若者たちに文化会館のイメージを出してもらって、そしてその希望などもくみ上げながら考えていくべきだというふうに求めたのですけれども、残念ながら、昨今、高校生たちの新聞部などなど関心が高まっておりますけれども、高校生や若年層と行政の間の対話というのは不十分であると言わざるを得ません。

そして、改修ではなく改築であると市長が表明したのは**2011年3月**のことでありました。

そもそも**鶴岡市の文化振興にとって、文化会館の単独での改築が最善の選択であったのだろうかということについて、市民との議論はあったのでしょうか。**一部改修にとどめること、あるいは図書館も相当に雨漏りがしたり老朽化しておりますけれども、多くの市民が利用するであろうほかの公共施設と合体して建築していくことなど、さまざまな可能性を検討する、そういった段階で市民を参画させるべきではなかっただろうかと思います。

2011年3月、今でこそ3・11のあった時期でありますけれども、その3・11の数日前の総括質問への答弁においては、市長は、「文化会館の再整備については、改修ではなく合併特例債を活用して改築することを決断したところであります。庁内関係部課で構成する文化会館整備に関する庁内検討会議での検討を踏まえて、23年度の予算編成に当たる市長ヒアリングにおいて、合併特例債を活用して改築すると判断したものであります」と述べられ、**市役所内部だけの議論で改築を決定した**ということが伝わってきております。

その際、私は全ての住民が文化会館の存在意義、何のために文化会館というのがあるんだと、今までの使われ方じゃない、これからの使い方ということについて意識を高めるためのフォーラムを開催してはどうか、あるいは住民アンケートを広くとって整備基本計画を検討する際のフィードバックにしたらどうかと求めましたけれども、その予定はないとの答弁でありました。

そして、**2011年6月1日**、先ほど申し上げましたけれども、**整備検討委員会の第1回会議において、現在の場所への改築、建設地の決定**が行われました。

るる先ほど申し上げたとおりですので言いませんけれども、このときに結論づけられたのは、**2年半の休館よりも2億円の解体費用のほうが市にとってメリットがある**んだと。**市民にとって2年半の休館というのは、さほどデメリットではない**というふうな御判断が市当局であったんだろうと思います。

その前提に立つと、2年半の休館は2億円よりも軽いのに、それ以上の延長は20億円よりも重いということは、余りにも御都合主義的な判断ではないかというふうに指摘いたします。

そして、その後**2011年9月**に、整備基本計画策定支援業務の先ほど申し上げた30万円での落札というのがありまして、その落札自体はいいんですけれども、結局、できた**整備基本計画が二十数ページであること**というのは、余りに薄っぺらく**具体性に欠けているため、その後の混乱を招く原因の一つとなった**というふうに申し上げます。

そして、中央公民館の席数というのは固定席は472

席でございますけれども、文化会館で開催されていた500人以上のイベントは、2010年度の実績で74件あったというふうに報告されておりますけれども、その**2011年9月**の段階で、**中央公民館で代替できないものについて**どのようにするのか、酒田の希望ホールや庄内町の響ホールなど、それなりに**責任ある対応、補助を出すとかそういったことを考えるべき**ではないかと求めましたけれども、市当局の答弁としては、「学校行事はスクールバスなどの送迎も対処するけれども、そのほかは各自で対応してほしい」「市内にも温海のふれあいセンターのように700席もあるホールがあるんだから、そちらを活用してくれ」というふうに、**市民への配慮が薄いと言わざるを得ない答弁**がありました。

そして、その後12月の定例会におきまして、2年半の休館期間というのは余りにも文化的な空白、そして文化的な後退につながると。市民にとって重大なダメージを伴うのではないかと。同じ中心市街地に建てるのでも、荘内病院跡地に建てたらいいんじゃないかと質問しましたけれども、「国の合同庁舎を荘内病院跡地に誘致して、中心市街地のにぎわいを取り戻すという方針で進めてきた経緯があるので難しい」というふうな答弁がございました。

その後の**2012年3月**の整備基本計画策定、そのときのパブリックコメントでは、22名の市民から意見がございました。

こういった**整備基本計画においてパブリックコメントをとることは、鶴岡市としては初めて**でしたので、その結果がホームページで閲覧できたことも含めて、**開かれた市政への第一歩**だというふうに一定の評価をいたします。

そして、先ほどから設計者選定の時点に問題があったのではないかという質問も出ておりましたけれども、この**設計者選定プロポーザルのヒアリングが市民公開で実施されて、その5社によるプレゼンテーションを135名の方々が傍聴したということは、鶴岡市にとっては画期的なこと**であったと思います。そして、その時点では、40億円でプリツカー賞を受賞したＳＡＮＡＡ（サナア）の妹島さんの建築物が鶴岡にあらわれるならば、こんなすばらしいことはないと思った方が多いと思うんですよね。

その後、プロポーザルの提案内容についての市民説明会にも88名が御参加でした。ところが、ここで起こったのは、設計チームの皆さんに対して、市民からぶつけられる質問、非常に活発な意見が寄せられました。

ところが、そこで設計者は困惑の色を隠せませんでした。なぜなら、整備基本計画の書いてあるとおりの条件で設計案を出しているのに、何でこんなに市民の間で意見が割れているんだろうというふうに困惑なさったと思うんです。それで、妹島さんはどう言っていたかというと、「そういうことは鶴岡の皆さんで決めていただかないと」というふうにおっしゃっていました。

このように、先ほど申し上げた整備基本計画の具体性の乏しさというのが、中高年者と若年層ですとか、頻繁に文化会館を使う人とそうでもない人、年に一遍も使わない人、**さまざまな立場の方々の意見の相違、それぞれの市民同士の対話というのが欠けていたためにコンセンサスの形成が十分ではなかった**というふうに、あの設計者による説明会を見て思いました。

その後、ワークショップが2回行われたこともすばらしいと思いますけれども、それぞれ52名、31名の市民が御参加でした。ところが、前提とするべき整備基本計画が具体性に乏しいために、さまざまな立場の市民が言いたい放題の要望を述べ合う場になったのは残念なことでありました。

そして、基本設計案の説明会が2013年の5月に行われ、100人の方々が集まりました。ところが、残念ながら設計者チームの飛行機が悪天候のため東京に帰ってしまったんです。それで、参加者からは、欠席裁判のような状況になりますけれども、そんな公園みたいな建築なんか要らないんだと。

妹島さんの建築物といえば、公園のような建築というのが世界的に評価されている設計案のまさに中心コンセプトなんですけれども、参加者からは、「そんな公園みたいな建築は要らないんだ」「箱でいいんだ、音響だけよければいいんだ」というような意見が飛び交いまして、殺伐とした雰囲気になったということで、**設計者と市民の間の対話不足、あるいは信頼関係の構築不足が露呈された**感がありました。

その後、無事に市民説明会は行われたんですけれども、抜本的にはその問題は解決していなかったと思います。

そして、先ほど**2013年9月**の段階で、県内の公共工事で入札不調が多発しておりました。その段階で、既に2倍の価格で入札があったケースもありましたけれども、当局からの説明では、「実勢価格を十分調査、資材、人件費の高騰にも対応した価格によって無事な入札を目指す」というふうに御答弁がありました。それを信じて、皆さん行動しておられたと思います。

そして、ことし1月、実施設計がまとまって解体寸前の文化会館に、冬ですけど、みんな集まって市民説明会が行われ、70名もの方々がお集まりでした。そして、その後入札不調によってどんどん市民の関心が高まっていったわけでございます。 **（※次頁へ）**

（※前頁より）　**今の窮状のもともとの問題点は、2年半の休館を軽く見たことにある**であろうと思います。これさえ**別の場所に建てることを決断していたならば、**仮に入札が不調だったとしても、まあ東京オリンピックが終わるまで**改修しながら待つかというような選択もありました**けれども、何しろ壊してもらったもんでしようがねえのというふうに市民の方々もおっしゃっているわけでございます。

しかしながら、**雨降って地固まる**と申します。榎本市長が掲げておられます市民、地域、行政の総合力を発揮する信頼関係を深めていくための今は好機なのではないかと思います。

これまで、先ほど副市長から御答弁がありましたとおり、市の方針が固まってから市民や議会に情報を開示しないとかえって事業推進の妨げになるといいましょうか、速やかでなくなるというふうな姿勢をとってこられたことが、全ての元凶なのではないかと思います。それは**2011年6月**の建築地の決定にもあらわれているだろうと思います。

後ろ向きではなく、未来に向かって市民とともに歩む市政、行政の態度を示すために、ぜひとも**幅広い市民、高校生や若年層、そしてふだん文化会館を使わない方々も含めて、情報共有とそして対話**、それによって**新しい文化会館へのイメージをみんなで形成**してからでも遅くないと確信し、**今回、説明不足の中で増額を強行することへは将来に大きな禍根を残すものとして断固反対**申し上げます。

以上、反対の討論といたします。（了）

定例会報告

平成26年9月定例会・一般質問

◆テーマ

1．子ども読書活動推進計画について
　(1) 現状について
　(2) 現場の声、市民の声を踏まえた策定について
2．新文化会館の管理運営実施計画について
　(1) アドバイザー会議について
　(2) 進捗状況について
　(3) 策定に向けた市民参画について
3．お祭りウィークについて

今回、子どもの読書推進、新文化会館、観光振興について取り上げました。すべて「文化」という点でつながっているはずですが、現在の鶴岡市には総合的な《文化振興ビジョン》がないため、一貫性がなくバラバラに進んでいるのがもったいない限りです。

6市町村が合併した鶴岡市には、実に多様な文化が息づいています。それらの相乗効果をあげ、未来に生かしていくために《文化振興ビジョン》の策定が必要ではないでしょうか。

つるおか市議会だより 平成26年9月定例会号

田中宏 議員

子ども読書の分析結果は

議員　6、825人もの児童・生徒・保護者から回答を得た、貴重な「子ども読書アンケート」の集計と分析結果の公表は。

教育部長　おはなし会の参加者に配布するなど、市民が手軽に入手できる方法を検討する。

新文化会館の管理運営は

議員　アドバイザーの人選と仕事の内容は。「一人ひとりが主役」との当事者意識を抱く市民を増やすための参画手法は。

教育部長　市内の芸術文化活動実践者の中から、活動分野や年齢を考慮して5人程度委嘱するほか、総合アドバイザーとして専門家を配置する。市民ワークショップを開催し、市民の声を直接聞く機会としてアドバイザーにも参加していただく。

「お祭りウィーク」への期待は

議員　荘内大祭、赤川花火大会、おいやさ祭りという性格の異なる3つのイベントが連携するお祭りウィークへの評価と、今後の発展への期待は。

商工観光部長　共同のポスターや看板製作による経費削減だけでなく、イベント参加者へのサービス提供を連携してくれる協力店を募集するなど工夫を凝らした取り組みで、PR面での相乗効果を上げている。地域に大切に受け継がれている夏祭りや伝統芸能などにもお祭りウィークの輪が広がっていくことを含め、市民の意向を尊重しながら、市としても支援していきたい。

おいやさ祭り